



令和7年度 学校評価 集計結果報告

令和8(2026年)3月19日
練馬区立上石神井北小学校
校長 濱 中 一

ご多用の中、学校評価にご協力いただき、ありがとうございました。令和7年度の集計結果をご報告いたします。児童および保護者の方々の貴重な評価を真摯に受け止め、今後もよりよい教育活動を実践できるよう努めてまいります。今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

■ Aとても思う ■ Bだいたい思う ■ Cあまり思わない ■ D思わない

A. 児童による自己評価

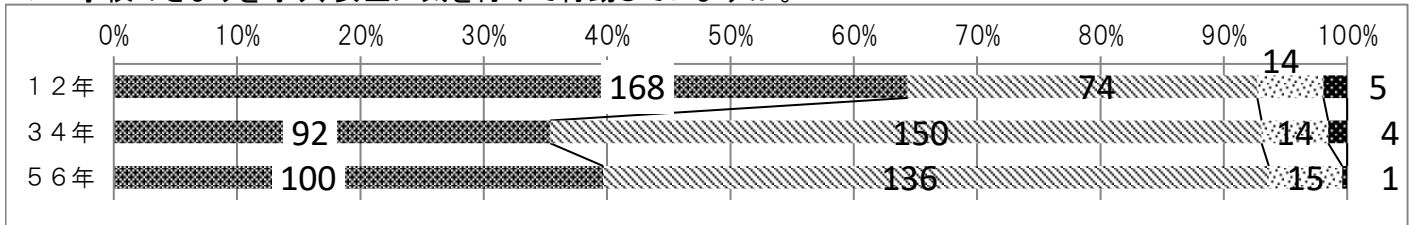
調査期間 令和7年12月2日～7日

集計総数 773名 (実施率 96.6%)

※みつば学級も各学年に含んでいます。

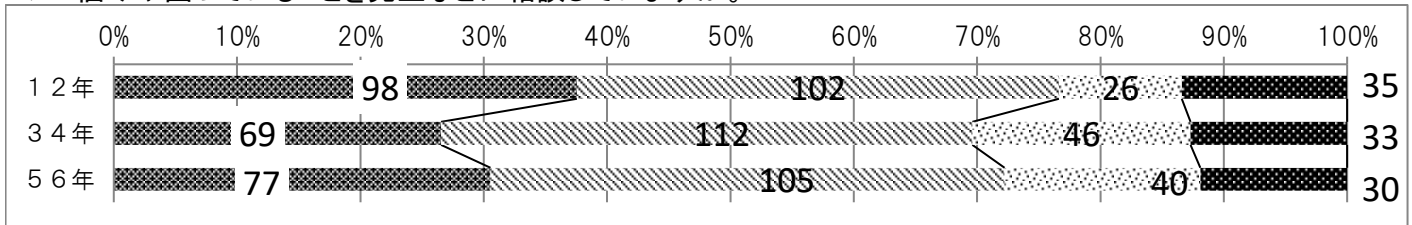
1. 安全安心な学校

Q1 学校のきまりを守り、安全に気を付けて行動していますか。



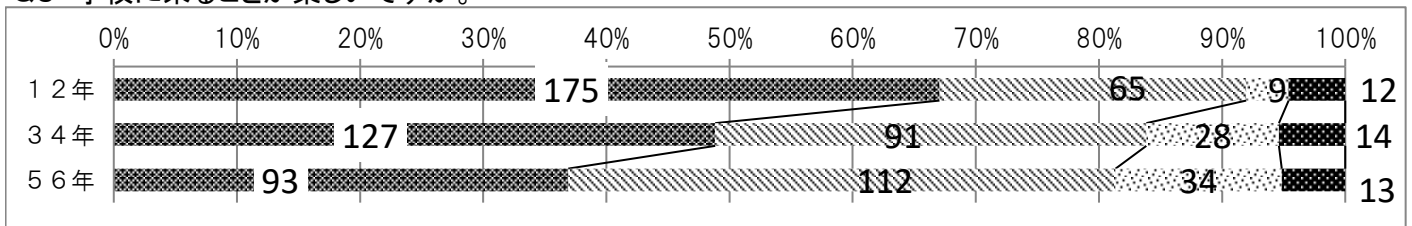
「Q 学校のきまりを守り、安全に気を付けて行動していますか」では、「とても思う」「だいたい思う」が全体の9割以上と高い数値です。自己を律しようとする上北小の子供たちの姿が表れています。避難訓練や安全指導はもちろんのこと、日常生活での約束事やマナーについても、引き続き場面ごとに指導をしていきます。

Q2 悩みや困っていることを先生などに相談していますか。



「Q 悩みや困っていることを先生などに相談していますか」では、「とても思う」「だいたい思う」が約7割でした。悩みがないという子が一定数はいるものの、さらに相談できる割合を上げていく必要があります。担任・専科・養護教諭・心の相談員・スクールカウンセラー・事務主事など、教職員全体が子供と接し、安心して子供が相談できる環境作りをして、子供からの信頼関係をより強めていきます。

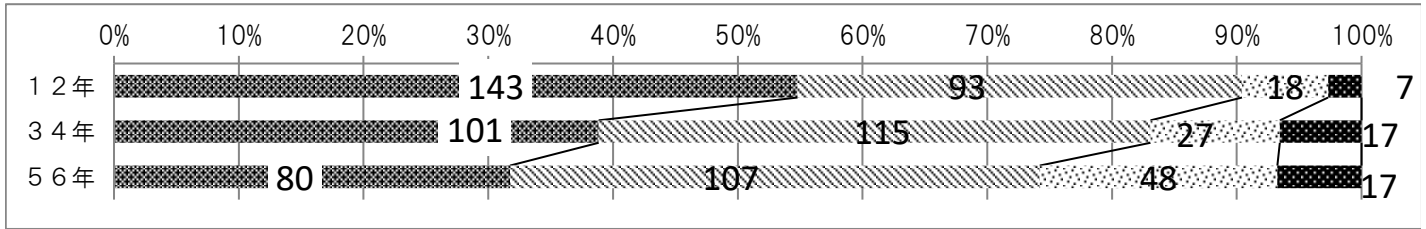
Q3 学校に来ることが楽しいですか。



「Q 学校に来ることが楽しいですか」では、「とても思う」「だいたい思う」が約8割以上でした。一方で「思わない」児童が約1割以上いました。授業において学び高まる楽しさ、わかる楽しさを引き続き味わせるとともに、学校行事や特別活動等において、仲間とかかわる楽しさを味わわせていきます。また、教師が子供の目の高さになって会話をし、子供の悩みや不安を和らげることで、より楽しい学校生活を送れるようにしていきます。

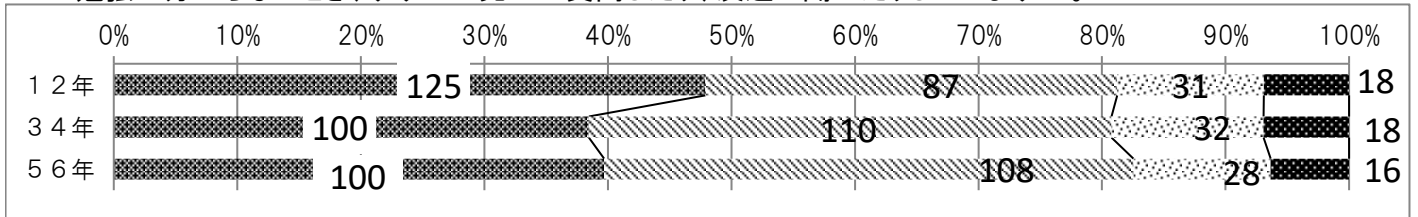
2. 新しい教育課程 ～知・徳・体の調和～

Q4 勉強がよく分かって楽しかった、またやりたい、と思うことがよくありますか。



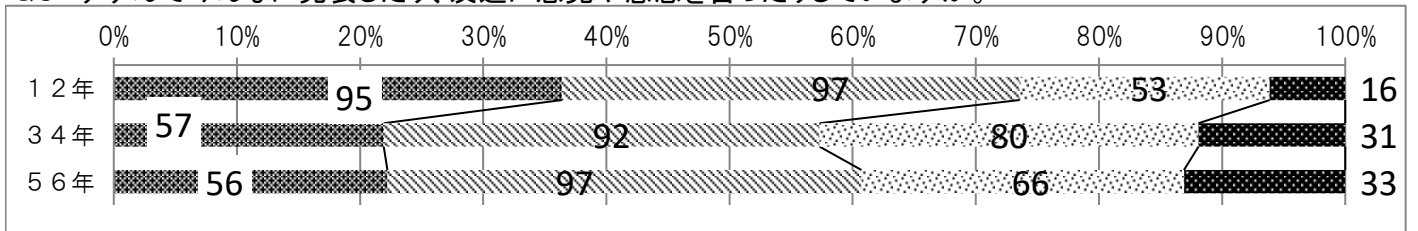
「Q 勉強がよく分かって楽しかった、またやりたい、と思うことがよくありますか」では、「とても思う」「だいたい思う」が全体の約8割でした。発達段階から、学年が上がるにつれ低下していますが、日々の授業はもちろんのこと、校内研修会を通じてより一層の授業研究を深め、研鑽を積み重ねていき、「とても思う」と感じる児童をより一層増やせるようにしていきます。

Q5 勉強が分からないとき、すすんで先生に質問したり、友達に聞いたりしていますか。



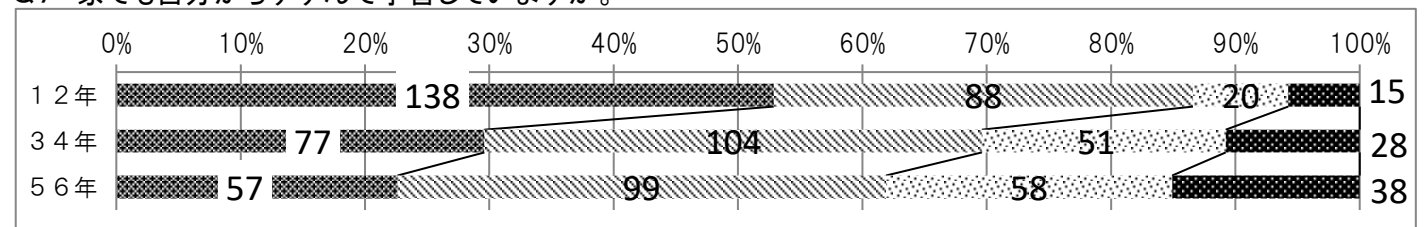
「Q 勉強が分からないとき、すすんで先生に質問したり、友達に聞いたりしていますか。」では、「とても思う」「だいたい思う」が全体の約8割でした。子供たちは日頃から学ぶ意欲を高くもって学習に取り組んでいると考えています。教師がすすんで質問しやすい雰囲気をつくり、日々の授業に丁寧に取り組み、分からないことを分からないままにせず、積極的に聞こうとする意欲を高くもてる子供をさらに増やしていきます。

Q6 すすんでみんなに発表したり、友達に意見や感想を言ったりしていますか。



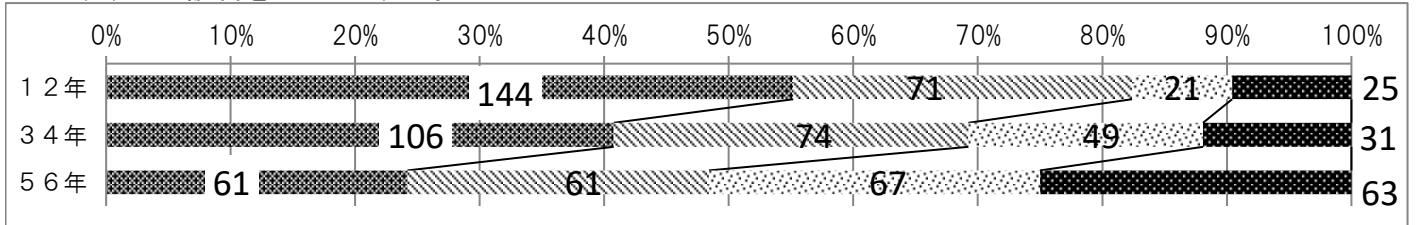
「Q すすんでみんなに発表したり、友達に意見や感想を言ったりしていますか」では「とても思う」「だいたい思う」が低・中学年で約7割、高学年で約6割でした。すすんで発表することは、本校の課題の一つと考えています。引き続き日常の学習で、学級内での発表や、グループ内発表、意見交換の場を多く設けるなどして成功体験を積みませ、すすんで発表できる子供を育てていきます。

Q7 家でも自分からすすんで学習していますか。



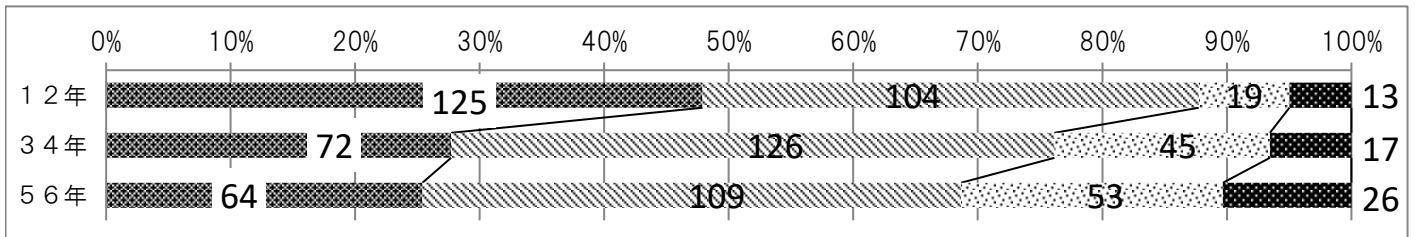
「Q 家でも自分からすすんで学習していますか」では、「とても思う」「だいたい思う」が低学年で8割以上、中学年で約7割、高学年は約6割以上でした。学年が上がるにつれて低下していく傾向が見られましたが、特に高学年については一層高めたいところです。学校での学びを家庭学習で習熟する重要性を指導した上で、家庭と連携しながら子供の意識を高めていきます。

Q8 すすんで読書をしていますか。



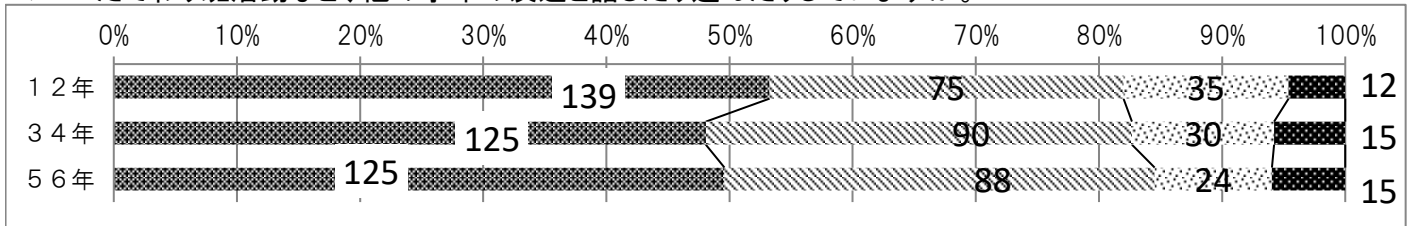
「Q すすんで読書をしていますか」では、「とても思う」「だいたい思う」が低・中学年では約9割前後、高学年で約7割以上でした。高学年では、多忙感から読書時間が減少しがちですが、読書旬間、調べ学習等の時間を大切に、すすんで読書に親しむ子供を育てていきます。

Q9 めあてや目標をもって、学習したり生活したりしていますか。



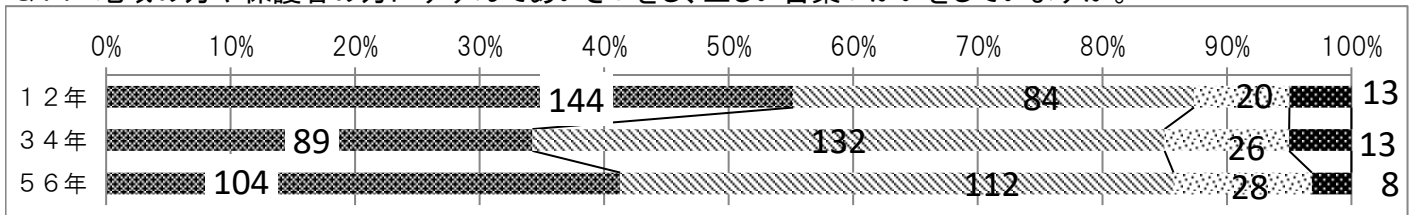
「Q めあてや目標をもって、学習したり生活したりしていますか。」では、「とても思う」「だいたい思う」が低学年で8割以上、中学年で7割以上、高学年で6割以上でした。学年が上がるにつれて減少していく傾向があります。学期はじめだけではなく、日常の学習からめあてや目標を意識させ、自主的に生活ができる子供を育てていきます。

Q10 たてわり班活動など、他の学年の友達と話したり遊んだりしていますか。



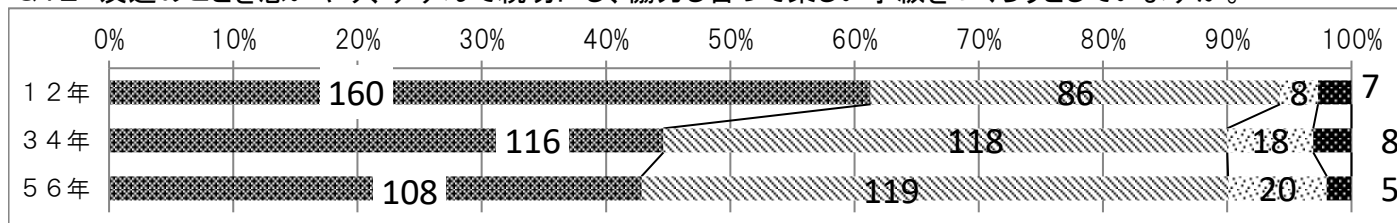
「Q たてわり班活動など、他の学年の友達と話したり遊んだりしていますか。」では、「とても思う」「だいたい思う」が約8割。どの学年でも高い意識が見られました。特に学校のリーダーである高学年が積極的に他学年の子供を意識していることは喜ばしいことです。これからも学校行事、委員会、クラブ、たてわり班活動などを通じて、一層異学年交流を充実させていきます。

Q11 地域の方や保護者の方にすすんであいさつをし、正しい言葉づかいをしていますか。



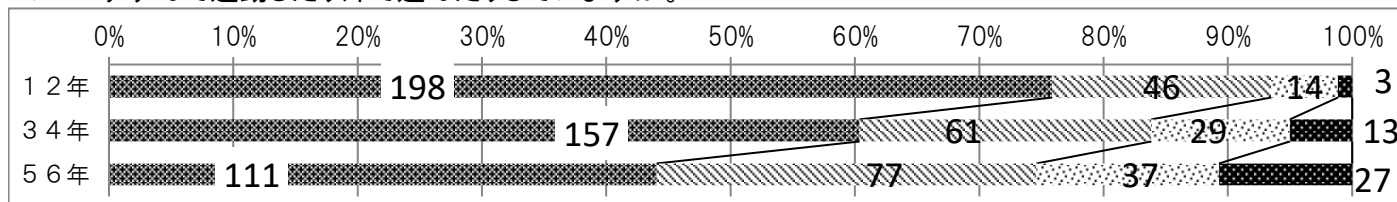
「Q 地域の方や保護者の方にすすんであいさつをし、正しい言葉づかいをしていますか」では、「とても思う」「だいたい思う」が8割以上でした。多くの子供たちがあいさつと言葉遣いに高い意識をもっていることがわかりました。また、【保護者による評価】「心が通い合う挨拶や丁寧な言葉遣い等、言葉を大切にされた指導が行われている。」も8割以上の評価を得ることができました。教職員の指導だけでなく、家庭・地域からの声かけにより、高い意識になっています。今後も全ての子供が笑顔で挨拶できるよう、引き続き連携した指導をお願いします。

Q12 友達のことを思いやり、すすんで親切にし、協力し合っって楽しい学級をつくろうとしていますか。



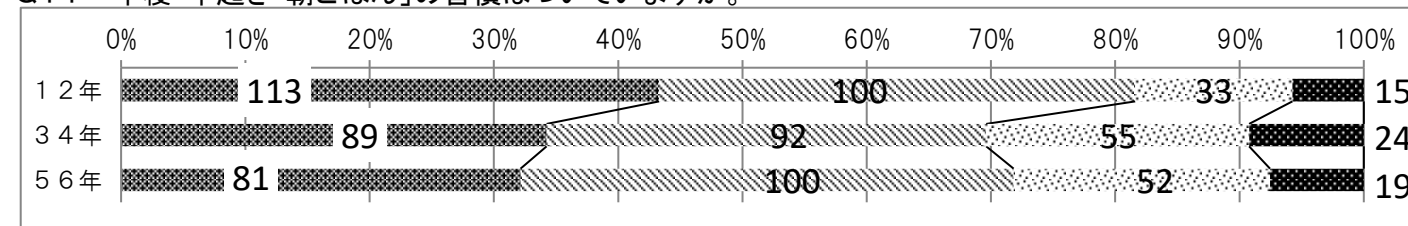
「Q 友達のことを思いやり、すすんで親切にし、協力し合っって楽しい学級をつくろうとしていますか」では、「とても思う」「だいたい思う」が全体で約9割以上でした。全ての学年で高い意識なのは、大変喜ばしいことです。相手のことを考え、共に学校生活を楽しくしていこうとする優しい上北小の子供たちです。これからも引き続き、親切にすることの大切さを伝えていきます。

Q13 すすんで運動したり外で遊んだりしていますか。



「Q すすんで運動したり外で遊んだりしていますか。」では、「とても思う」「だいたい思う」が低学年で9割以上、中学年で8割以上、高学年では7割以上と、学年が上がるにつれて減少する傾向にあります。体育科研究による体育学習の更なる授業改善、本年度から始めた上北マラソンをはじめとする運動遊びの啓発などにより、運動の楽しさを味わわせ、毎日の休み時間を保障し、自らすすんで運動に親しむ子供を育てていきます。

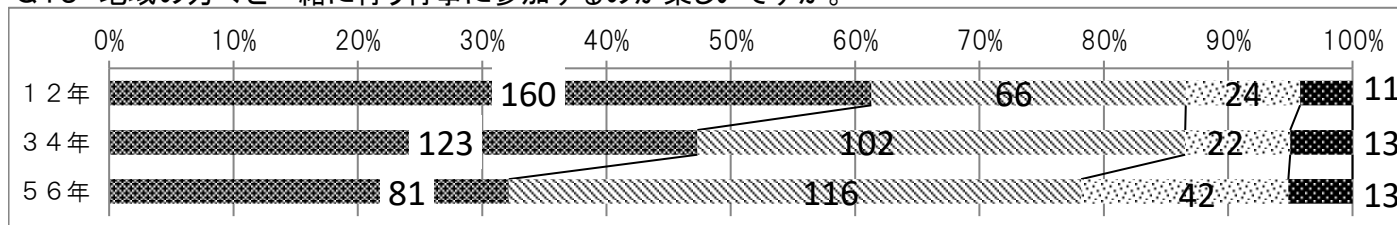
Q14 「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣はついていますか。



「Q 早寝・早起き・朝ごはんの習慣は、ついていますか」では、どの学年にも「あまり思わない」「思わない」が25%程度いました。早寝・早起き・朝ごはんの習慣は、基本的な生活習慣の基となっているので、是非改善したい項目です。子供たちに意義を指導し、ご家庭でも意識を高めていただき、定着させていきます。

3. 外に開かれた学校・地域との連携

Q15 地域の方々と一緒にを行う行事に参加するのが楽しいですか。



「Q 地域の方々と一緒にを行う行事に参加するのが楽しいですか」では、「とても思う」「だいたい思う」が低・中学年で約9割以上、高学年でも約8割と多くの子供が楽しく取り組んでいます。高学年は休日の予定も多く、参加できていない状況もあるかもしれませんが、今、いろいろな形で地域行事が復活してきています。子供が健やかに育つためには、地域の皆様の支えが必要不可欠です。今後も、地域に愛され、地域を愛する子供たちを6年間かけてはぐくんでまいります。

B. 保護者による評価・教職員による自己評価

保護者による評価 調査期間 令和7年11月25日～12月5日 集計総数598通 回収率91.3%
 教職員による自己評価 調査期間 令和7年11月25日～12月5日 集計総数38通 回収率95.0%

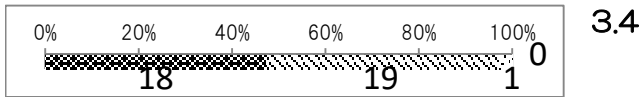
◎ 教職員による自己評価は4段階、保護者による評価は「わからない」を含めた5段階で評価しました。
 ◎ 数字は人数です。
 ◎ 各グラフ右側の数字は、その項目の評価の平均点です。
 とても思う=4点 どちらかというと思う=3点 どちらかというと思わない=2点
 そう思わない=1点 わからない=0点

※Aとても思う ※Bどちらかというと思う ※Cどちらかというと思わない ■Dそう思わない ※Eわからない

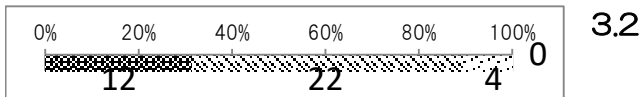
1. 「安全安心」に関する項目

【教職員による自己評価】

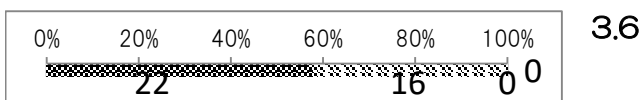
安全指導、組織的な安全対策など、子供の保健安全管理、危機回避のための対策をとれたか。



個にあった指導を、教職員が一体となって実施、充実できているか。

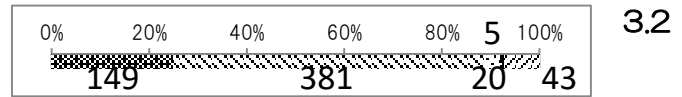


いじめ、問題行動等を予防し、組織的に適切な対応ができたか。

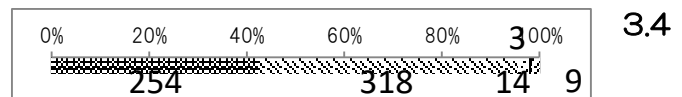


【保護者による評価】

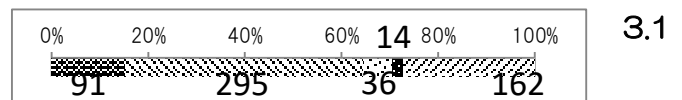
不審者・災害対策、安全指導など、子供の安全確保のための対策がとられている。



学校施設、教室環境など、安全で学びやすい環境が整っている。



いじめや問題行動に対して、適切な指導が行われている。



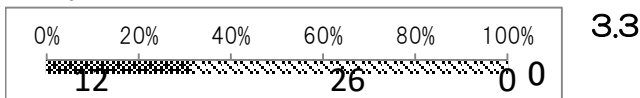
「Q. 安全確保のための対策」「Q. 安全で学びやすい環境」では、保護者による評価では「とても思う」「だいたい思う」が全体の90%以上でした。今後も児童の安全・安心を第一とした環境づくりをすすめてまいります。

「Q. いじめへの指導」では、保護者による評価では「とても思う」「だいたい思う」が88%、一方、「わからない」が全体の27%。学校では特に力を入れて対応しています。しかし一方、いじめへの指導は、デリケートな対応やプライバシー保護が必要な場合があり、全保護者の皆様にはなかなか伝わりにくい面があります。状況を判断しながら学校組織での取組状況を伝えていきます。また、児童との面談、直接会話を増やし、児童理解、問題の未然防止、即解決の方針、家庭との情報交換、職員間の組織対応、等をキーワードに、いじめを生まない環境づくり・組織づくりを目指します。「上北小は、いじめを絶対に許さない」という強い姿勢で引き続き児童を見守り、適切な指導を行ってまいります。

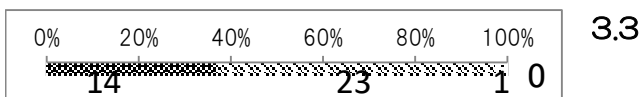
2. 「新しい教育課程」に関する項目

【教職員による自己評価】

新学習指導要領に確実に対応した教育活動を展開したか。

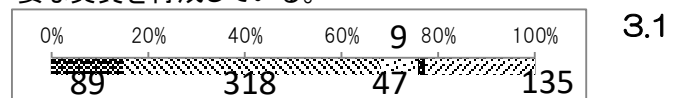


スタートカリキュラム、学年当初指導、GW・長期休業前指導を充実できたか。



【保護者による評価】

効果や価値のある指導を随時取り入れ、新しい時代に必要な資質を育成している。

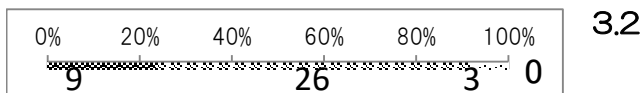


「Q. 新学習指導要領への対応・新しい時代の資質育成」では、保護者による評価では「とても思う」「だいたい思う」が全体の87%でした。一方、「わからない」が22%。新しい指導内容の本質を保護者の皆様にお伝えしていくのは、なかなか難しいことでもあります。今後も指導内容の本質をおさえ、タブレットパソコンなどのICT機器を活用するなど、積極的かつ確実に、新しい時代に必要な資質を育成するため指導を工夫してまいります。

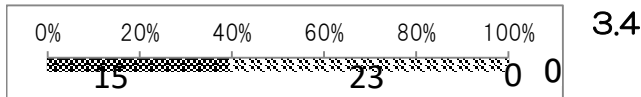
3. 「知」に関する項目

【教職員による自己評価】

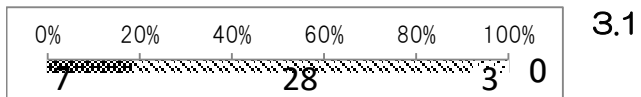
各教科・領域の基礎基本を確実に定着させ、自ら考え高まる楽しさを味わう授業を実践できたか



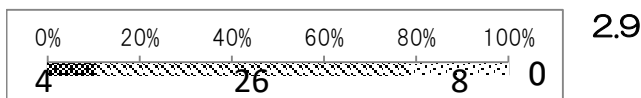
児童のよさを認め励ます指導、一人一人に応じた指導の実践はできたか



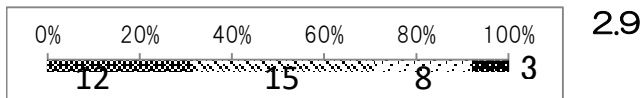
言語活動を主軸とした主体的で深い学びのある授業を実践できたか。



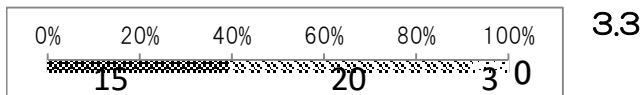
上北スタンダードは定着できたか。



読書時間を確保し、読書に親しませることができたか。

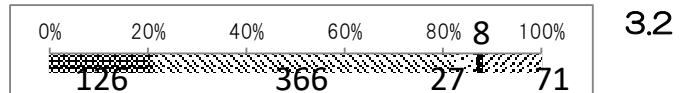


授業改善をめざした研究授業を行い、教師としての力量の向上をはかれたか。

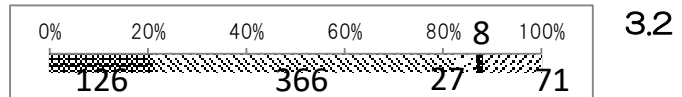


【保護者による評価】

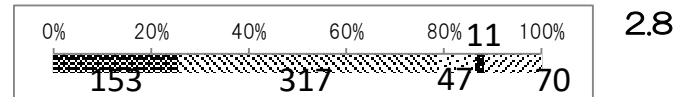
基礎的基本的な学力の定着を図り、高まる楽しさを味わう授業、よく分かる授業を行っている。



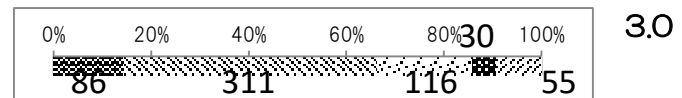
子供のよさを認め励ます指導、個に応じた指導、最後までやりぬく指導が行われている。



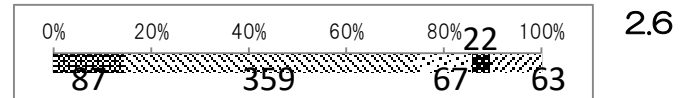
話をよく聞き、自分の考えをすすんで発表できる子になっている。



家庭学習が定着するように適切な指導が行われている。



すすんで読書に取り組む子になっている。



「Q. 基礎基本の定着」の保護者による評価では、「とても思う」「だいたい思う」が全体の90%以上でした。また、「Q. 個に応じた指導」「Q. 家庭学習の定着」の保護者による評価では、「とても思う」「だいたい思う」が全体の80%以上でした。「Q. 授業改善・教師の力量向上」をはじめとする、教師による自己評価には、今年度の取組への一定の評価と同時に、教師の意識の向上が数値に表れています。今後も教師の自効努力とともに、基礎基本の学力定着のため家庭学習へのご協力を引き続きよろしくお願いいたします。

「Q. 一人一人に応じた指導の実践」の教職員評価では、3.4であり、保護者による評価も3.2であり、一定の評価を得られていると感じます。さらなる個別指導の充実に努めていきます。

一方で課題として挙げられるのが「Q. 自分の考えを進んで発表」では、保護者による評価では「とても思う」「だいたい思う」が全体の73%、児童の評価Q6「すすんでみんなで発表したり、友達に意見や感動を言ったりしている」でも全体で約63%となっており、課題と言えます。日常の学習の中で、グループ発表の場を意図的に設けるなど、全ての子がすすんで発表できるようにし、成功体験を積み重ねて発表への意欲を高めていきます。

「Q. 上北スタンダードの定着」の教職員による自己評価は、8割が「とても思う」「だいたい思う」であったものの、「とても思う」の割合は高くありませんでした。学習規律を定着させてより高い学びができるよう、教師自身が高い意識をもって根気強く取り組んでいきます。この課題解決には、ご家庭の協力が必須です。まずはご家庭で、学習用具を整え、授業で学ぶ心構えをお子様にもたせていただくよう、お願いいたします。

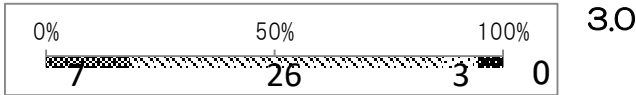
「Q. 読書活動」に関する質問では教職員による自己評価「2.9」、保護者による評価でも「とても思う」「だいたい思う」が58%と、低く出ており、大きな課題であると考えます。学校司書を活用した学校図書館の充実や読書旬間の充実をさらにすすめ、児童が読むことの楽しさを感じることでできるように指導していきます。

引き続き、よさを励ます指導を全ての教師が心がけ、子供の課題をつかみ、わからなかったことをわかるようにすることで、全ての子供が笑顔で通える学校を目指していきます。

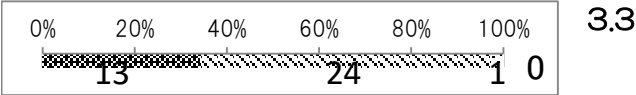
4. 「徳」に関する項目

【教職員による自己評価】

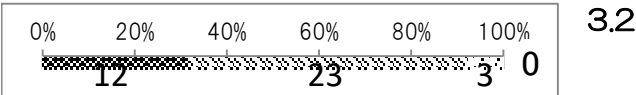
道徳の授業の充実をはかり、豊かな人間性の基礎を
 耕すことができたか。



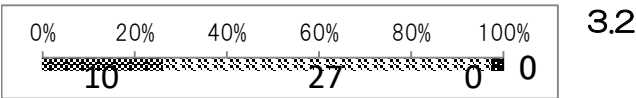
たてわり活動を中心とした異学年の交流を実践し、豊
 かな人間性や社会性を育てることができたか。



心が通い合う挨拶や丁寧な言葉遣い等、言葉を大切に
 した指導はできたか。

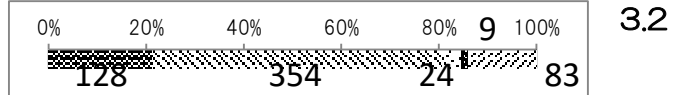


教師の指示の通り学級作り、自浄作用のある学級集
 団作りができたか

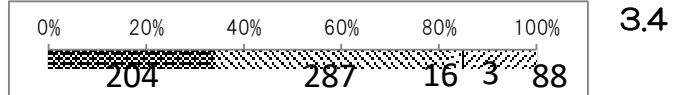


【保護者による評価】

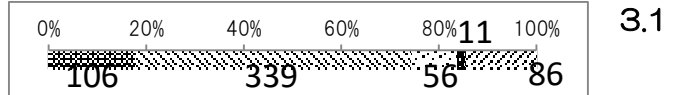
道徳科の授業をはじめ、さまざまな指導を通して心の教
 育の充実が図られている。



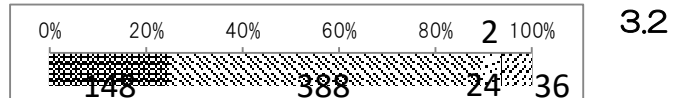
たてわり班活動等を通して異学年の交流が効果的に
 行われている。



心が通い合う挨拶や丁寧な言葉遣い等、言葉を大切に
 した指導が行われている。



集団生活での細かなルールも守り、友達と協力・共同して
 活動している子になっている。



「Q. 道徳の時間の充実・心の教育」では、保護者による評価「とても思う」「だいたい思う」が93%と、一定の評価をいただきました。一方、道徳授業地区公開講座など、可能な限り道徳の授業公開を行ってきま
 したが、「わからない」が全体の13%と多くみられました。さらに道徳科授業の充実を図り、自信をもって高
 い評価を付けられるようにするとともに、令和8年度も積極的な道徳の授業公開、学年だより等での授業紹介、
 ホームページでの日常の子供の様子の紹介等で、より分かりやすくお伝えしていきます。

「Q. 縦割り活動・異学年の交流」では、保護者による評価「とても思う」「だいたい思う」が全体の9
 6%と一定の評価をいただきました。今後も、本校の特色である異学年の交流の場を多く設定し、日常的に異
 学年がかかわれるよう活動を工夫していきます。

「Q. 挨拶や言葉遣い」では、保護者による評価では「とても思う」「だいたい思う」が86%という評価
 をいただきました。【児童による自己評価】では、児童のあいさつの意識は約86%と高く、保護者の方々の
 声掛けや学校での指導によって、児童は人を大事にする心が育ってきていると感じます。一方、保護者による
 評価の「どちらかというと思わない」「そう思わない」が一定数ありました。引き続き、次年度も代表委員を
 中心としたあいさつ運動を行い、あいさつへの意識を高める取組を全校で行うとともに、改めて教師自身が
 言葉を大切にする心を心がけるよう、取り組んでまいります。

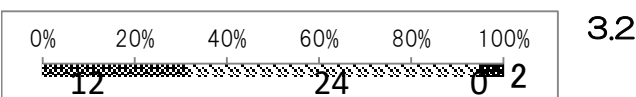
なお、子供の言葉遣いの手本は教師です。教師自身が「いねいかつ適切な言葉遣いで子供と接する意識を、一
 段と高めていけるようにしていきます。今後ご協力をお願いします。

「Q. 集団生活のルール 協力共同しての活動」では、保護者による評価では「とても思う」「だいたい思
 う」が全体の95%でした。引き続き高い意識をもてるよう、子供たちをしっかりと見守っていきます。

5. 「体」に関する項目

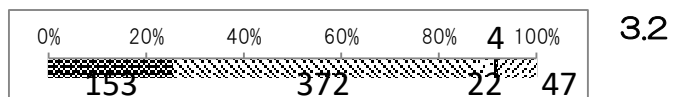
【教職員による自己評価】

すすんで運動に親しみ健康な身体づくりをする態度を
 養うことができたか。

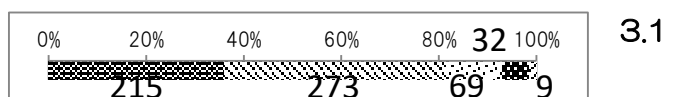


【保護者による評価】

保健指導や体育授業等を通して健康な体づくりに取り組
 んでいる。



「早寝・早起き・朝ごはん」を習慣化できている。



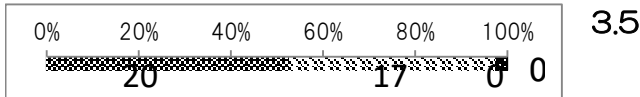
「Q. 健康な身体づくり」では、保護者による評価では「とても思う」「だいたい思う」が95%。一方、
 【児童による自己評価】の「Q12. すすんで運動する」では、「とても思う」「だいたい思う」が83%
 で多くの児童が積極的に運動に取り組んでいることが分かります。健康な身体づくりの柱は「体育授業」
 「運動遊び」「体育的活動」です。今年度は、なわとび旬間、上北マラソン旬間に取り組みました。次年度
 も、遊びや授業を通して、引き続き運動の楽しさを味わわせていきます。

「Q. 早寝 早起き 朝ごはん」では、保護者による評価では「とても思う」「だいたい思う」が83%で
 した。【児童による自己評価】でご覧くと、全体として75%でした。保護者の方々の捉えより、子供た
 ちは一層規則正しい生活をしたいと考えているのかもしれませんが。心身の成長が著しい小学校段階の子供た
 ちの発達段階に合わせ、今後も規則正しい生活に向けて家庭と連携しながら指導していきます。

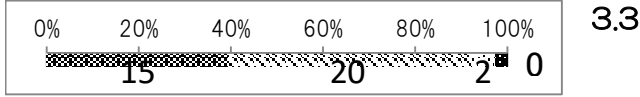
6. 「外部への公開・地域連携」に関する項目

【教職員による自己評価】

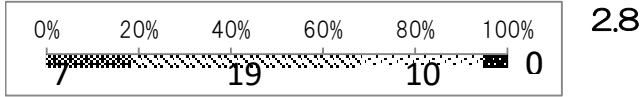
学校公開、学年・学級通信等を通して学校の様子を外へ伝えたか。



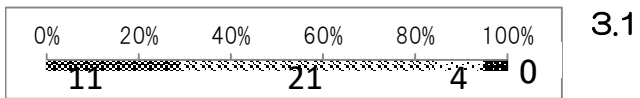
保護者会や感想アンケート等を通して、保護者の意見を受け止めたか。



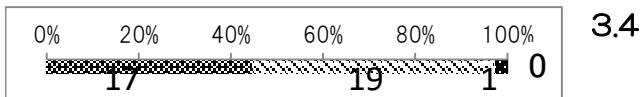
地域の人材活用、地域の教材化、地域行事への参加等はできたか。



保護者と連携した活動はできたか。

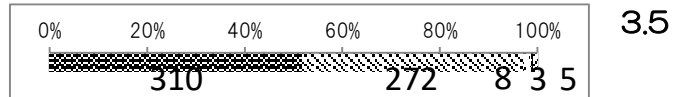


家庭や関係機関との連携はとれていたか。

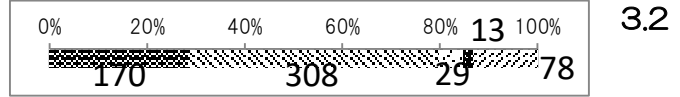


【保護者による評価】

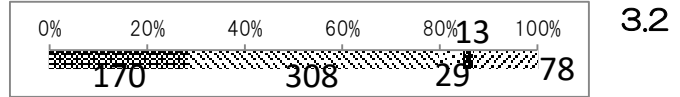
学校公開、行事、学校だより等を通して学校の様子が伝えられている。



保護者の思いや意見を受け止め、適切に対応している。



保護者や地域の教育力を生かした教育活動が行われている。



「Q. 学校の様子を伝える」では、保護者による評価では「とても思う」「だいたい思う」が全体の98%と最も数値が高かった項目です。引き続き、学校ホームページ、学校だより、学年だよりの充実を継続し、積極的な公開を行っていきます。本校は、365日学校公開ですので、いつでも足をお運びいただき、子供たちの学ぶ姿をご覧ください。

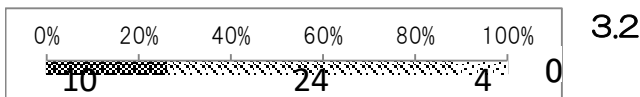
「Q. 保護者の思いを受け止め適切に対応する」では、保護者による評価では「とても思う」「だいたい思う」が91%でした。教職員により自己評価「Q. 保護者の意見を受け止めたか」では「3.3」でした。教職員が保護者の方々の意見を受け止め、適切に対応していることに一定の評価をいただきました。引き続き、保護者の皆様への丁寧な説明・連携や、支援の必要な児童に対する組織的な対応を行っていきます。

「Q. 保護者・地域の教育力を生かした活動」の保護者による評価では「とても思う」「だいたい思う」が全体の92%でした。一方、教職員による自己評価「Q. 地域行事への参加」は「2.8」、「Q. 保護者との連携」は「3.0」と、決して高いポイントではありません。しかしながら、これまで中止となっていた地域行事等が戻りつつあること、何より開校65周年記念行事などで地域や保護者の皆様にご協力いただき、これらに向けた一層の連携の形が作られつつあると考えています。『地域を愛し 地域に愛される 上北小』を合言葉に、次年度も地域・保護者の方々に協力いただいてさらに学習材の開発をし、保護者、地域の教育力を活かした活動やゲストティーチャー授業を行い、子供たちの心を育てていきます。

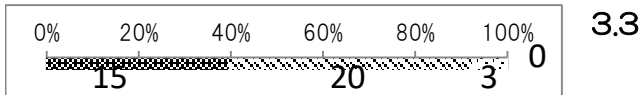
7. 「内に開かれた学校」に関する項目

【教職員による自己評価】

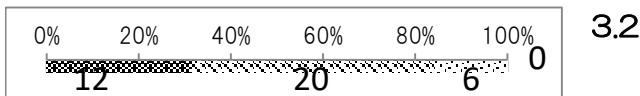
教育目標を共有化し、組織を生かした活動ができたか。



合同授業・TT指導・専科教諭との協力はできたか。



他の職種との相互尊重と連携ははかれていたか。



「Q. 教育目標の共有化と組織活動」の教職員による自己評価では「3.1」、「Q. 指導での協力」の教職員による自己評価では「3.3」、「Q. 他職種との相互尊重・連携」の教職員による自己評価では「3.1」でした。これらの取り組みに際し、一定の評価があったと考えます。教職員は職種・職層や経験によって様々な専門性を有しています。次年度も個々の専門性や役割を相互に生かしながら、引き続き「チーム上北」を合言葉に、特別支援教室、学校生活支援員、心のふれあい相談員、スクールカウンセラー、養護教諭、担任、専科の特別支援での連携、栄養士や給食調理員との給食での連携、用務主事や事務主事との施設環境面での連携、外部関係機関・保護者・地域との情報連携を確実に行っていきます。

今回も保護者評価にご協力いただき、深くお礼申し上げます。本年は約91%のご家庭から回答をいただくことができました。これからも学校HP、学校・学年だより、保護者会や個人面談での情報共有等を密に行うことで、本校の教育活動をご理解いただけるよう対応していきます。次年度は限りなく100%に近いご家庭からのご意見をいただくことで、より一層の学校改善に努めていきたいと考えております。学校の教育活動は、学校のみではなく保護者・地域の方々と共に知恵を出し合って考えていく内容があると考えます。毎回の行事感想でもご協力いただいているとおり、皆様と共につくっていく上北小です。令和8年度も本校の教育活動へのご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。